

原発避難 医療従事者に配慮ない

救急医 越智 元郎 64

(愛媛県八幡浜市)

原子力規制委員会が、原発でトラブルが起きた際、地域の病院などに入院中の患者の病状悪化を避けるため、避難指針を見直す考えだと報じた本紙記事(11月17日)を読んだ。私は、伊方原発から30キロ圏内を担当する災害医療コーディネーターとして、規制委の「患者の避難開始を遅らせる」

方針に複雑な思いだ。

30キロ圏内の入院患者は約1800人。座ってバスで移動できない患者も多く、避難に手間取ると死亡もあり得る。だが、体制が整うまでは病院にとどめた場合に、医療スタッフへの望まぬ「被ばく」が問題となる。放射性物質の流入を防ぐ換気装置のある病床は、私が勤務する病院の12床程度で、医療スタッフへの配慮

はない。汚染地域への医薬品や食料補給はどう図るのか。規制委の方針は医療スタッフの献身と犠牲なしには成り立たない、と訴えたい。

時事川柳選者 代わります

よみうり時事川柳
めでいただいた前田
日をもって引退され
者として、14日から
『写真』に選句をお
とになりました。

前田氏は2007

から9年余りにわた
世相を映し出しながら

